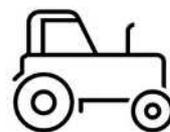


畜産現場で活用できる “ヒヤリハット”対策



令和8年3月



佐賀県畜産試験場

概要

- ・家畜育種では、週2回精液採取を行っているが、精液採取時に種雄牛が興奮して、危うく事故になる場面があった。
- ・精液採取時の事故を未然に防ぐための安全対策を紹介。

採取者に牛が倒れてこないように抑える

ヘルメットを全員着用



安全長靴を全員着用

暴れる可能性があるため
引き手は2人態勢

ここ大事!!!

- ・とにかく焦らない、慌てない、採取者と引き手のタイミングを合わせる、牛の具合に合わせることを意識する!!!

肉用牛

牛の滑り防止に多孔質資材散布

現状

牛床がコンクリートのため、糞尿等で汚れた牛床は滑りやすく、牛が怖がり暴れたりしていた。また、分娩後の子牛がコンクリートで滑り肢を痛める原因にもなっていた。



糞尿で床が滑る



濡れているところを避ける牛がいる

対策

牛床に滑り止めとして多孔質資材を散布し、牛や人の安全を確保する。



改善前



改善後



今回使用した資材
(ケイ酸カルシウム結晶体)

散布風景

概要

- ・コンクリートを綺麗に掃除してから散布する。
- ・ムラがないようにし、薄く撒いて大丈夫。
- ・臭いやハエ対策にも効果が期待できる。
- ・尿で流れてしまうので、週1回定期的に散布する。

対策後

- ・明らかに滑らないようになり、怖がる牛も減少した。
- ・子牛の起立もスムーズになった。

この事例の概要

- ・日常的な管理にあたり、牛に足を踏まれてけがをする可能性がある作業は多々ある
- ・そういった事故が起きやすい場面や作業を行う際の注意点・対策方法を紹介する

○足を踏まれる事故が発生がしやすい場面

- ・牛の近くで作業を行う場合
- ・多数の牛が周辺にいる場合
→作業をしている牛だけではなく、他の牛に踏まれる可能性がある
- ・足元の確認ができない、もしくは見えない状態のとき
→牛が動いた際に反応が遅れてしまう



牛の近くに足を置いて作業する際には踏まれる可能性が非常に高くなる

○作業を行う際の注意点

- ・牛を驚かしたり怖がらせたりしない
→予期せぬ動きや多動の原因になり、事故の危険性が高まる
- ・足元が確認できる場所や位置から作業を行う
- ・逃げ場がある状態で作業を行う
→狭い場所での作業は特に注意する

事故防止方法として…

- ・安全靴の着用
- ・牛を落ち着かせる
 - 牛に接触する際には正面からではなく、体を触りながらゆっくり後ろから近づく
 - 作業前にブラッシングをする
- ・しっかりとした牛の保定
- ・作業時は立ち位置に考慮する

○牛が動きにくい保定の仕方

【良い例】



- ・牛と柵を近づけて保定することで、牛が動く範囲を狭め、牛の動きを抑制することができる

【悪い例】



- ・牛と柵の間に距離があるとその分だけ牛が動けるようになり、大きく動いてしまう



安全靴を履いて
足先を守る！